

ごあいさつ ～絶対お勧め！「さまよえるオランダ人」～

県民ホール館長の折原です。

いよいよ新制作オペラ「さまよえるオランダ人」の上演が間近になりました。ワーグナーファンの方はもちろん、多くの方が楽しみでわくわくされているのではないのでしょうか。

実はこのオペラ、昨年12月に上演し大変ご好評をいただいたオペラ「金閣寺」（当館自主制作）とは違い、国内7者が共同して制作・上演するものです（7者；びわ湖ホール、iichiko 総合文化センター、東京二期会、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団、当館）。

現在、この19日・20日上演に向けて関係者一同最終準備の真っ最中ですが、共同制作ということもあり、去る5日、当館に先立ち上演（5日・6日）されたびわ湖ホールのものを見てきました。

いいのです。感激しました。詳細はお楽しみにとおきたいのですが、このワーグナー初期の傑作を、巨匠ミヒヤエル・ハンペ氏演出のもと、指揮の沼尻竜典氏や出演者の皆さんが熱演し、2時間20分あっという間でした。

幽霊船のストーリー自体も面白いのですが、愛や苦悩、誠や打算、妄想や現実など登場人物（幽霊も人物？）の感情がひしひしと伝わってくるのです。でも今回は何よりも映像（装置・衣裳；ヘニング・フォン・ギールケ）でしょう。背景映像がすごいのです。まるで3D映画のようです。荒れ狂う海、幽霊船がぐぐぐと近寄り、疾風のように去っていく。すぐさま舞台に引き込まれます。

横浜港にはすでに氷川丸が停泊していますが、ここの波はノルウェーの港の波よりずっと穏やかでしょうし、山下公園では赤い靴をはいた少女も待っています。幽霊船もひよっとするとここ横浜への上陸を心待ちにして意気込みも強いのではないのでしょうか。今週末が本当に楽しみです。

最後にもう一言だけ申し上げます。2時間20分あっという間ですが、上演は3幕でも休憩はありません。私もびわ湖に向かう新幹線の中の飲食はもちろん、当日は朝から体調管理に務めました（上演前にも何回かトイレに行きましたし）。余計なお節介で大変申し訳ありませんが、集中してご覧になっていただくためにもよろしく願い申し上げます。絶対お勧めのオペラに間違いありませんので。

皆様のご来館を心からお待ち申し上げます。

H28. 3. 14
神奈川県民ホール館長
折原 守

